雌の住居を訪れたゴミグモの雄

加 藤 正 世

生垣の處ふと見るとゴミグモの雄が雌の網の一端へ來て，前肢で恰も琴でも彈く樣に絲をはじいて居る。その內に雌が向き直つてその方へやつて來たが，急に思ひ直した樣に元へ戾つてしまつた。早速カメラを持つて來て見ると，丁度兩者接合して居る最中なので，早速レンズを向けたが，どうも逆光線で具合が惡く，あゝか斯うかと向きをかへて居る內に電光石火パツと離れて雄は絲を引いてぶら下つてしまつた。しまつたと思つたが十日のあやめ，兎も角その後の光景を留めて置いたのが此の寫眞である。ゴミグモの雄は雌の爲に食はれる樣なことはないらしい。　　（昭和14年6月，石神井にて）

